

新たな地域コミュニティ支援事業にかかる受託者の評価結果について（平成28年度中間）

1 地域活動協議会の現在の状況についての分析

評価項目

「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組（イメージ）」

- (1) 「Ⅰ 地域課題への取組」についての分析
- (2) 「Ⅱ つながりの拡充」についての分析
- (3) 「Ⅲ 組織運営」についての分析
- (4) 「Ⅳ 区独自取組」についての分析

評価	左記の理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題として、高齢者の見守り事業への対応が急務であることや、区内河川一帯での南海トラフ地震による津波被害や上町断層地震の被害が想定されることから、福祉・防災に力を入れた取り組みが必要であり、少子高齢化の進展度合いにおいても地域格差が大きいという特徴も把握しており、区の意見と一致している。 ・構成団体の状況は、「学校や福祉施設」との連携は進んできているものの、「企業・事業者」や「NPO等非営利団体」は少ない。新たな人材発掘のため、より広範な参加参画が求められており、住民が地域行事や活動について知り、参加できるように積極的に広報が重要としている点も区の意見と一致している。 ・総会や運営委員会の議決機関は、まちづくりセンターの支援により適切に開催されており、また、各部会ごとの会議開催を勧め、スムーズな運営を促している。意思決定された議事録や収支決算報告書の公表をSNSや広報紙で行うなど、情報をオープンにして地活協の活動が誰にでもわかるように広報することが重要としている点も区の意見と一致している。 ・「認知症カフェ」「子ども食堂」は、CB/SBからすると趣旨が異なるものの、新たな取り組みをしようとしている点について評価するが、「まず、やる」ところから始めると目的が変わってくるので、目的・対象を明確にして進めていくよう支援に注意が必要である。

2 事業の実施内容（支援策（取組）の内容）

評価項目

「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組（イメージ）」

- (1) 「Ⅰ 地域課題への取組」にかかる支援の提案内容

- (2) 「Ⅱ つながりの拡充」にかかる支援の提案内容
 (3) 「Ⅲ 組織運営」にかかる支援の提案内容
 (4) 「Ⅳ 区独自取組」にかかる支援の提案内容

評価	左記の理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 16地域中4地域は「法人格取得」「地域公共人材の活用」以外はステージⅠをほぼ達成できており、他地域でも「完了」「概ね順調に取組中」という状況である。福祉・防災に力を入れた取り組みは、区民にも受け入れられてきており、この課題への取り組みの流れに沿うことで、地域活動に関心を持つ区民にもアピールできている。 ・ 平成27年4月から自主的に地域毎の開催が始まった「地域活動協議会情報交換会」の開催は、平成28年9月で12回目となり、今年度中に全16地域で開催完了する見込みとなったことは、まちづくりセンターによる支援によるものと評価している。各地域で力を入れて取り組んでいるテーマや手法について、そのノウハウや工夫している点を発表し、他の地域がそれを参考にして他の地域の良いところは取り入れ、理解しようというものであり、他の事業のように区役所からの「やらされ感」がないことから、地域活動協議会相互の交流につながることを期待されるなど、重要な取り組みであると考えており、全16地域で開催完了できる見込みがたったことは地活協全体レベルの底上げにつながることであり、その後方支援は評価できる。 ・ 「Ⅱつながりの拡充」に関しては、特に広報に力を入れて取り組んできており、SNSの全地域での立ち上げに加え、紙ベースの広報紙作成の16地域中12地域まで実施を達成できたことは、課題解決に大きくプラスになるものであり、新たに発行した広報紙で事業計画書や決算書の公表もする地域がでてくるなど、地域活動のオープン化に大きな効果があると評価する。 ・ 収益事業を行うことに対する地域の反発はまだまだあり、趣旨を十分理解できるように勉強会の開催は有効であり、身近な内容から進めることにより、やらされ感が無いように進めようとしていることは当区の実態と合っている。

3 事業の実施体制等

評価項目

- (1) 自由提案による地域支援の提案内容
 (2-1) スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制にかかる提案内容

(2-2) フォロー(バックアップ)体制等にかかる提案内容

(3) 区のマネジメントに対応した取組にかかる提案内容

評価	左記の理由
C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報活動に取り組んだ成果が期待される。 ・ 各部会ごとの会議開催は、テーマが共通であることから活発化することが予想される。 ・ 当区で連携が進んでいない企業・NPO等との連携は、「町会」の枠組みをこえた新たな地域活動につながることを期待されるため、引き続き努力されたい。 ・ 今年度より、支援員4名のうち2名が新人にかわったことから、アドバイザー・支援員でフォローをするものの、支援員としても新人であったため、地域要望に十分応えることができない状況があると一部地域役員から聞き及んでおり、一層の支援充実策を検討する必要がある。 ・ 新任支援員へのフォローは当区まちづくりセンター内部だけで行うのではなく、担当地域のニーズに合わせられるよう、適宜、本部から専門アドバイザーを派遣させるなど適切な人材を送り込むべきである。 ・ CB/SBに関しては、改めて専門アドバイザーを要請するなど、地域へ再度説明をすることが必要と考える。

4 区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策(取組)(5つ以内)

評価項目

区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策(取組)

評価	左記の理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「地域活動協議会の情報発信などの支援」については、単に広報紙の発行の回数を望むのではなく、内容の豊富化、深化が図れるように、専門スタッフなどによる継続的な支援が必要。 ・ 「防災に対する住民意識の向上」について、防災の取り組みは、地域住民にとって共通の関心事であり、地域活動協議会との貴重な接点であると考えられることから、防災訓練等への参加が担い手の発掘につながる仕組みを検討されたい。 ・ 「さまざまな活動主体が互いに連携して活動する支援」について、地域活動協議会構成団体以外の外部団体との新規事業の実施は、「地域の活性化をするには重要」というのは理解できるが、それ自体が目的ではなく、活動の中で必然的に行われるものと考えられ、地域への過度な負担にならないように取り組むこと。

5 現時点での支援策（取組）の実施状況に対する区の評価及び意見

評価項目

(1) 現時点での支援の実施状況

(2) 上記を受けた、年度後半の支援についての考え

評価	左記の理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・「運営状況 様式5-1、5-2」の内容についても、着実に進展しているが、区役所が地域へ出向いて全16地域で実施したヒヤリングの結果、各項目では計れない地域差があると認識しており、16地域の進捗度合いに差が生じているのはやむを得ないが、区全体の底上げができるよう支援されたい。 ・活動を活発化させるうえで大きな効果があると考えられる「部会会議」の開催は7地域で実施できており、これまでの支援の成果と考える。 ・SNSによる広報の全地域立ち上げに続き、広報紙の発行支援に取り組んだ結果、発行地域が9地域から12地域に増加したことは評価できる。 ・各地域活動協議会では、今年度地域振興会の役員改選が実施されたことに伴い、多くの役員交代があったため、改めて各役員をはじめ地域の活動スタッフに地域活動協議会への理解を深めておく必要があり、ワークショップの実施は適切と考える。 ・「部会会議」の開催地域数を増やすよう支援を進めることも適切と考える。 ・「子ども食堂」の取り組みをCB/SBとしてとらえるのか、それとも福祉目的なのか、対象を明確にしたうえで事業計画を立てるよう支援すべきと考える。「認知症カフェ」もまず実施ではなく、課題解決に向けた体制が整うよう支援されたい。

6 総合評価

評価	左記の理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域による進捗度合いに差が生じてきているため、それぞれの地域に応じた丁寧な支援が必要である。 ・会計を独力で処理できるようになった地域では、ステージ2・3の達成という更なる高みを目指してスケジュールを立て、支援にメリハリをつけて行ってもらいたい。

	<ul style="list-style-type: none">・新たな活動メンバーに対して、ワークショップを開催するときには、他区の先進事例も紹介して地域活動協議会が目指している「自律的運営」の将来像とはどういうものであるかを把握できるように支援されたい。・若手人材の登用が進むように支援されたい。・期末までに実施予定の「まちづくりセンターアンケート」は、これまでよりも多くの地活協構成団体の役員に実施し、より広い意向調査を行われたい。
--	---

(評価基準)

S：本市の求める水準を大幅に上回る効果が得られた

A：本市の求める水準以上の効果が得られた

B：おおむね本市の求める水準どおりの効果が得られた

C：本市の求める水準の効果が得られていない